

学校・地域連携カリキュラムによるキャリア教育活動

岩国市立由宇小学校

1 はじめに

本校は、地域連携教育と小中一貫教育を推進する上で、中学校区で地域協育ネットの活用を軸にした学校・地域連携カリキュラムを作成し、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を最大限に活用することで児童の知・徳・体のバランスのとれた成長を図っている。特にキャリア教育の推進に当たっては、他者とのつながりや様々な体験の中で、夢や目標をもたせ、達成に向けて努力させ、成果を実感させることを通して成就感や達成感を与え、自信をもたせていくようにカリキュラム・マネジメントをしている。

そこでつながる他者に関しては、地域で活躍する人材や児童に本物の素晴らしさを体感させてくれる人材を選び、学校に来てもらい、児童に感動体験を与えてもらってきた。例えば、平成29、30、31年度の3年間は、カープの選手に来校してもらい、6年生にキャリア教育の授業を実施したり、地域の方々にも話をしてもらったりしてきた。しかし、コロナ禍で昨年度は中止となった。今年度も実施が危ぶまれたが、リモートで何とか子どもたちの質問に答えてもらうなど交流することができた。また、これも6年生を対象に、異業種の職業人に職業講話をお願いしてきた。今年度も引き続きお願いしたところ快く引き受けていただいた。

これらの取組による体験は、本校の児童だけを対象とせず、同一中学校内の他の小学校の児童や本校区内の地域住民とも共有し、地域の学びの場となるように計画している。そういう意味ではカープの選手との交流などは非常に残念で仕方なかった。そのような中で取り組んだささやかな実践の一端について報告したい。

2 「縁」をつなげる

学校行事が、形を変えたもののおおむね実施できたことは本校にとって非常に有り難かった。しかし、昨年は11月に入り、由宇町観光協会の方から、「本年度はカープ選手の学校訪問は難しい」との連絡があった。それまで3年間継続して実施し、本校の特色ともなりつつあった取組だけにショックは大きかった。しかし、これも相手あってのことだけに仕方がない。また、昨年11月中旬に岩国地域ではコロナの感染が相次ぎ、学



カープ選手との交流（リモート）

校の警戒レベルを上げる必要性を感じる中、学校に人を招くことも憚られる状況となっていた。今年度は11月に入り「リモートならば」との打診を受けて準備を進めた。本来であれば選手を招くとともに、同じ町内の児童や地域の方々にも呼びかけるところであったが、リモートであることや感染予防対策の面から本校6年生に限って実施することとした。

直前までどの選手がリモートでつながってくれるのかわからない状況もあり、6年生は質問を考えることに苦慮したが、それでも自分の夢につながるような質問を考えることができた。

3 地域の先輩

6年生のキャリア教育のもう一つの目玉は地域の先輩を学校に招き、それぞれの仕事に対する思いを語っていただくことである。カープの選手とはまた違った子どもたちにとってはより身近な存在であるだけに実感を持って話を聞くことができる。

また、ある講師の方が「子どもに話をするために改めて自身の仕事や生き方について考えさせられ、勉強になりました。」とおっしゃっていた講師の方々にとってもこの場が学びの場であったことをうれしく思う。学びはつながるものである。講師の学びが子どもの学びとなり、子どもの学びが将来につながってくれることを切に願う。

4 終わりに

今年度もコロナ禍にあり、すべて計画通りの実施とはならなかったが、制限された中でできる教育活動を工夫しながら行うことができた。これまでの「縁」を切ることなく、次年度につなげることができたと思っている。また、知恵を絞り考え続けることがなにより大切であることを子どもたち自身感じることができたのではないだろうか。今後も新たな可能性を信じ、希望を持ち、今できることを懸命に行っていきたい。

最後に、このような活動ができたのも山口県教育会の助成があったからである。大変感謝している。



住宅メーカーの社長さんの話



保育士さんの話